

学生便覧 2023年度  
B2023-3-1

国際人文学部

国際文化学科

# 履修の手引と手続き

<小目>

I	ディプロマ・ポリシー	2
II	カリキュラム・ポリシー	2
III	授業科目について	3
IV	授業科目の単位と認定	3
V	卒業に必要な単位について	4
VI	進級条件及び各学年における標準的な修得単位	4
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	7
	1. 全学部共通基盤科目群	7
	2. キャリア形成科目群	12
	3. 学部コア科目群	12
	4. 外国語科目群	12
	5. 専門基礎科目群	16
	6. 専門科目群	17
	7. 教職・学芸員関連科目群	23
	8. 特設科目群	24

# 履修の手引きと手続き

## I ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際人文学部 国際文化学科は、所定の単位を取得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（国際文化）の学位を授与します。

- ・文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
- ・世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
- ・自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
- ・一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
- ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
- ・必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
- ・異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
- ・習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

## II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

国際人文学部国際文化学科では、教育研究上の目的\*及び学位授与方針に基づき、グローバル人材を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

- 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
- 学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯学習に資する主体的・自律的な学びを実現するため、導入期教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群を設置する。
- グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方について多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間にとっての教養を身に付け、人文学を学ぶことの意義を明確にできるように、学部コア科目群を設置する。
- グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語を身に付けるため、外国語科目群を設置する。
- 言語、文学、美術、歴史、社会、ジェンダー、比較文化など、専門分野の学びの基礎を身に付けるため、専門基礎科目群を設置する。
- 日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、世界の文化に関する専門知識を身に付け、活用できるように、専門科目群 I を設置する。
- 韓国及び韓国語が使用される地域の言語・文化・社会についてより深く探究するため、専門科目群 II を設置する。
- 演習及び研修・インターンシップを通して、専門分野の学びの集大成をはかるため、専門科目群 III を設置する。
- 専門分野の学びをより広げ、卒業後の進路や就業に結び付けたキャリア形成をはかるため、言語・文化・社会関連科目からなる専門科目群 IV を設置する。
- 専門分野の学びに係る教育職員免許状や学芸員資格などを取得するため、教職・学芸員関連科目群を設置する。
- 比較の観点や学際的な視点を身に付け、文化をより深く理解するため、専門分野以外の科目を履修することを奨励し、自主選択科目群を設置する。
- アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、学位授与方針に示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

---

\*本学学則第2条3を参照

### Ⅲ 授業科目について

国際人文学部国際文化学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群，キャリア形成科目群，学部コア科目群，外国語科目群，専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，教職・学芸員関連科目群，特設科目群から構成されている。

教職・学芸員関連科目群は教職に関する科目および学芸員資格取得に関する科目で卒業単位に含まれない。しかし、各教科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。

### Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行う。Fの評価については、単位を認定しないものとする。なお、N・Hは、単位振替により単位を認定したことを示す。

## V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。ただし、教職・学芸員関連科目群の科目は卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	国際人文学部 国際文化学科
	単 位 数	
全学部共通基盤科目群	21	
キャリア形成科目群	5	
学部コア科目群	4	
外国語科目群	8	
専門基礎科目群	10	
専門科目群Ⅰ（国際文化）	国際文化コースは専門科目群Ⅰより24単位	
専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）	韓国語コースは専門科目群Ⅱより24単位	
専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）	12	
専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）	10	
教職・学芸員関連科目群	なし※	
自主選択科目。自らの学びを深めるために、上記の科目群より、それぞれの科目群で指定された単位数とは別に、卒業に必要な単位を32単位以上修得すること。他学科履修として、国際交流学科の科目をこれに含めることができる。また、10単位を上限として、経営情報学部、福祉総合学部、メディア学部、観光学部の他学部履修科目を、32単位に含めることができる。	32	
計	126	

※教職・学芸員関連科目群の各教科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。それ以外の科目は、卒業単位に含まれない。

## VI 進級条件及び各学年における標準的な修得単位

1年から2年への進級にあたっては、15単位以上を修得していること。

2年から3年への進級にあたっては、50単位以上を修得していること。

また、「基礎演習A・B・C」及び1年次の必修科目の単位を修得していること。ただし、50単位以上の単位修得がある場合には、これらの科目の未修得単位数が4単位以下の者の進級を認める場合がある。

他に、2年次に長期留学をし、海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認める場合がある。

3年から4年への進級にあたっては、3年間の学業を遂行し、84単位以上を修得していること。各学年に履修する科目群および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。選択するコースによって卒業要件が異なるため、1年次から学習計画を立てる必要がある。

各クォーター（S1, S2, F1, F2）の履修登録については13単位まで、サマーセッション（SS）は5単位まで、ウィンターセッション（WS）は7単位までとし、年間の履修登録については原則42単位までとする。

4月入学生……4月から3月の期間で42単位まで。

9月入学生……9月から8月の期間で42単位まで。

ただし、学部が教育上適当と認める場合は履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

※標準的な修得単位は次のとおりとする。

## ■国際文化コース

科目群	必修／ 選択	1年次	2年次	3年次	4年次		科目群 合計	必修科目 コース必修科目
全学部共通基盤科目群	必修	3				3	21	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II※ 第二外国語 I・II デジタルアプリ A, アカデミック・スキルズ
	選択必修	8	4			12		
	選択	4	2			6		
キャリア形成科目群	必修	3	2			5	5	(必修) 基礎演習 A・B・C (推奨) キャリア形成演習
	選択							
学部コア科目群	選択	2	2			4	4	
外国語科目群	選択必修	4				4	8	(選択必修) 第二外国語Ⅲ,Ⅳ
	選択		2	2		4		
専門基礎科目群	選択	6	4			10	10	
専門科目群Ⅰ (国際文化)	コース必修	2				2	24	(必修) 国際文化入門 (推奨) 英語演習, クリティカル・リーディング
	選択	6	10	6		22		
専門科目群Ⅱ (韓国にかかわる言語・ 文化・社会)	選択							
専門科目群Ⅲ (ゼミ研修・実践)	必修			4	4	8	12	国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (選択必修) 「卒業論文」または 「卒業制作」 (推奨) 国際文化研修
	選択必修				4	4		
専門科目群Ⅳ (言語・文化・社会関連)	選択	2	4	4		10	10	
教職・学芸員関連科目群								
自主選択科目			8	22	2	32	32	
学年別修得単位数 計		40	38	38	10	126	126	

※優れた英語能力を有すると認められた者は、「Fundamentals of English I・II」「Oral Fluency I・II・Ⅲ・Ⅳ」に代わり、「English for Advanced Studies A・B・C・D」「English for Specific Purposes A・B・C・D」のクラスを指定する。

■韓国語コース

科目群	必修／ 選択	1年次	2年次	3年次	4年次		科目群 合計	必修科目 コース必修科目
全学部共通基盤科目群	必修	3				3	21	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II※ デジタルアプリA, アカデミック・スキルズ (推奨) 韓国語
	選択必修	8	4			12		
	選択	4	2			6		
キャリア形成科目群	必修	3	2			5	5	(必修) 基礎演習A・B・C (推奨) キャリア形成演習
	選択							
学部コア科目群	選択	2	2			4	4	(推奨) 留学プランニング
外国語科目群	選択必修	4				4	8	(選択必修) 第二外国語Ⅲ,Ⅳ
	選択		2	2		4		
専門基礎科目群	必修	2				2	10	(必修) 韓国現代文化
	選択	2	4	2		8		
専門科目群Ⅰ (国際文化)	選択							
専門科目群Ⅱ (韓国にかかわる言語・ 文化・社会)	コース必修	8				8	24	(必修) 韓国語コミュニケーションⅠ,Ⅱ  (推奨) 韓国語コミュニケーションⅢ, 韓国語プロジェクトA・B
	選択	2	8	6		16		
専門科目群Ⅲ (ゼミ研修・実践)	必修			4	4	8	12	国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (選択必修) 「卒業論文」または 「卒業制作」 (推奨) 国際文化研修
	選択必修				4	4		
専門科目群Ⅳ (言語・文化・社会関連)	選択	2	4	4		10	10	
専門科目群Ⅴ (教職・学芸員関連)								
自主選択科目	選択		10	20	2	32	32	
学年別修得単位数 計		40	38	38	10	126	126	

※優れた英語能力を有すると認められた者は、「Fundamentals of English I・II」「Oral Fluency I・II・III・IV」に代わり、「English for Advanced Studies A・B・C・D」「English for Specific Purposes A・B・C・D」のクラスを指定する。

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとし、同一クォーターでの複数履修を不可とする。Ⅰを修得することでローマ数字がⅡの科目の履修を可とする。
- (2) 「A・B」で表示された科目は、アルファベットの順序に従って履修する必要はなく、同一クォーターでの複数履修を可とする。
- (3) 「ⅠA・ⅠB」は一方又は両方の履修を可とする。ローマ数字がⅡの科目は、ⅠAを修得した場合は、ⅡAを、ⅠBを修得した場合は、ⅡBの履修を可とする。
- (4) ただし、実際の履修についてはシラバスに記された各科目の履修要件をよく読み確認すること。
- (5) 単位数を○で囲んだ科目は必修を示す。
- (6) 本学はクォーター制をとっている。基本的に大多数の科目は、S1, S2, F1, F2の4つの学期、及びSS, WSの集中講義期間のいずれかに開講される。ただし、一部にS1, S2, またはF1, F2を通して開講される科目がある。また、SSとWSの集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (7) 全ての授業科目は、年度初めに履修登録を行う。
- (8) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに指定されている科目でも、2年次以上になってから履修できる。但し、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定しているので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

### 1. 全学部共通基盤科目群

全学部、全学年の学生を対象として設置される科目である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養を身に付けることを目的とする。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	①				21 単位	「アカデミック・スキルズ」、「デジタルアブリA」の2科目3単位必修、外国語科目12単位選択必修を含み、21単位以上を修得すること。
	SDGs×大学生	1					
	Fundamentals of English I	2					
	Fundamentals of English II		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	Oral Fluency I	2				<p>なお、外国語科目 12 単位選択必修は、以下の通り。</p> <p>■日本で 12 年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生</p> <p>(1) 英語は、下記の 8 科目から 4 科目 8 単位を選択必修。 「 Fundamentals of English I, II」 「Oral Fluency I, II」 「 English for Specific Purposes A,B」 「 English for Advanced Studies A,B」</p> <p>※「English for Advanced Studies A,B」 「English for Specific Purposes A,B」の 4 科目は優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。</p> <p>(2) 第二外国語は、「中国語 I」から「チェコ語 II」までの科目のうち、一言語を選択し、同一言語 I, II の 2 科目 4 単位を選択必修。</p> <p>※ 「日本語 I」から「社会と文化の日本語 B」までの 8 科目は、留学生と指定された帰国生徒のみが履修できる科目である。</p> <p>■留学生・指定された帰国生徒 「日本語 I」から「社会と文化の日本語 B」までの 8 科目のうちの 4 科目 8 単位を含む外国語科目 12 単位を選択必修。</p>	
	Oral Fluency II		2				
	TOEIC Preparation A	2					
	TOEIC Preparation B	2					
	TOEIC Preparation C	2					
	TOEIC Preparation D	2					
	English for Specific Purposes A	2					
	English for Specific Purposes B	2					
	English for Advanced Studies A	2					
	English for Advanced Studies B	2					
	中国語 I	2					
	中国語 II	2					
	韓国語 I	2					
	韓国語 II	2					
	スペイン語 I	2					
	スペイン語 II	2					
	ドイツ語 I	2					
	ドイツ語 II	2					
	フランス語 I	2					
	フランス語 II	2					
	ハンガリー語 I	2					
	ハンガリー語 II	2					
	ポーランド語 I	2					
	ポーランド語 II	2					
チェコ語 I	2						
チェコ語 II	2						
日本語 I	2						
日本語 II	2						
統合日本語 I	2						
統合日本語 II	2						
日本語アカデミック・ライティング	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	日本語アカデミック・スピーキング	2					※選択4単位分は、日本語以外の外国語科目も履修できる。ただし、母語を履修することはできない。
	社会と文化の日本語 A	2					
	社会と文化の日本語 B	2					
	データ分析の基礎(解析)	2					
	データ分析の基礎(線形代数)	2					
	自然科学概論	2					
	生命現象の理解とその応用－生命科学	2					
	環境科学	2					
	食環境論	2					
	香りと環境	2					
	情報セキュリティ A	2					
	情報社会と情報倫理	2					
	人工知能論	2					
	データサイエンス I	2					
	データサイエンス II	2					
	統計学		2				
	身体を理解	2					
	デジタルアプリ A	②					
	デジタルアプリ B	2					
	生物からみた環境の仕組み・生態学	2					
	インターネット配信	2					
	エリアスタディーズ A	2					
	エリアスタディーズ B	2					
	観光の現在と未来	2					
	ヘルスツーリズム	2					
	社会心理学	2					
	生活と文化		2				
	生涯スポーツ概論	2					
	スポーツ社会学	2					
	ボランティア論	2					
コミュニケーションの基礎	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトA	2					
	域学共創プロジェクトB	2					
	域学共創プロジェクトC	2					
	域学共創プロジェクトD	2					
	域学共創プロジェクトE	2					
	域学共創プロジェクトF	2					
	域学共創プロジェクトG	2					
	域学共創プロジェクトH	2					
	域学共創プロジェクトI	2					
	域学共創プロジェクトJ	2					
	史学概論	2					
	西洋史概論	2					
	アジア史概論	2					
	現代史入門	2					
	人類とモノづくり	2					
	房総の文化と歴史	2					
	科学史	2					
	映像メディア史	2					
	音楽史	2					
	経済学入門	2					
	社会と経営	2					
	社会と会計	2					
	マーケティング論	2					
	広告戦略論	2					
	社会調査		2				
	日本国憲法	2					
	民法A		2				
	商法		2				
	著作権	2					
	社会福祉学A	2					
社会福祉学B		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論 A	2					
	世界遺産のいま	2					
	美学・芸術学	2					
	表象文化研究	2					
	日本の現代文化	2					
	日本の伝統文化	2					
	文学のはじまりー古代ギリシア・ローマの文学	2					
	世界の文学	2					
	演劇研究	2					
	古典芸能研究	2					
	教育学	2					
	心理学	2					
	基礎の数学	2					
	ジェンダー論	2					
	根拠への問いー哲学へのとびら	2					
	宗教学概論	2					
	倫理学概論	2					
	スポーツ科学 A	1					
	スポーツ科学 B	1					
	スポーツ科学(ダンス)IA	1					
スポーツ科学(ダンス)IB	1						
しゃべりのスキル Up I	2						

〔備考〕

- (1) 全学部共通基盤科目群では、第一外国語として英語を学ぶ。うち、Fundamentals of English I・II、Oral Fluency I・IIは必ず選択すること。ただし、優れた英語能力を有する者は、English for Advanced Studies A から English for Specific Purposes B の 4 科目からいずれかの科目の履修を指定する。
- (2) Fundamentals of English II、Oral Fluency II を履修するためには、履修前提条件として、それぞれの I を修得していなければならない。
- (3) 英語科目を履修する場合は、プレイスメントテストを受験すること。入学時は、オリエンテーション期間に実施する。2年次の履修に向けては、毎年2月にプレイスメントテストを実施する。
- (4) 日本語科目は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目 (N2, N1) を選択すること。
- (5) 日本語能力が N2 相当の水準に達していない場合は、語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

## 2. キャリア形成科目群

「基礎演習 A・B」は1年次、「基礎演習 C」は2年次の必修である。大学で学ぶための基礎的な学力を身につけることや専門分野への導入を目的としている。また、キャリア形成への意識開発と目標設定を行うことも目的としている。

「キャリア形成演習」と「ビジネス入門」は、いずれも選択科目である。「キャリア形成演習」は、就職活動への準備を行うことを目的としている。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎演習 A	①				5単位	両コースとも、3科目5単位必修。
	基礎演習 B	②					
	基礎演習 C		②				
	キャリア形成演習		2				
	ビジネス入門		2				

※「基礎演習 A・B・C」を修得していない場合は、原則として、専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）における「国際文化演習 I・II・III・IV」は、履修できない。

## 3. 学部コア科目群

この科目群は、グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び、国際化社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にすることを目的としている。留学を予定する者は、「留学プランニング」を履修することが望ましい。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学部コア科目群	歴史・文化の視点		2			4単位	両コースとも、2科目4単位を選択必修。
	異文化理解		2				
	世界の中の日本		2				
	国際コミュニケーション入門		2				
	留学プランニング		2				

## 4. 外国語科目群

全学部共通基盤科目で英語などの言語を学んだのち、さらに、国際化社会に生きるための教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語、また言語と社会とのつながりを学ぶための科目を配置している。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Basic Writing Skills I		2				
	Basic Writing Skills II		2				
	Intermediate Practical Discussion Skills I		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills II	2				8単位	<p>両コースとも、第二外国語Ⅲ、Ⅳの2科目4単位を含み、8単位以上を修得すること。</p> <p>※第二外国語Ⅲ、Ⅳは、全学部共通基盤科目を履修する際に選択した第二外国語と同一言語のⅢ、Ⅳを選択必修。</p> <p>※「English for Advanced Studies C,D」と「English for Specific Purposes C,D」は、優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。</p>
	Intermediate Writing Skills I		2				
	Intermediate Writing Skills II		2				
	Intermediate Reading Skills I		2				
	Intermediate Reading Skills II		2				
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
	Advanced Reading Skills			2			
	Business English Writing			2			
	Spoken Business English			2			
	Oral Fluency III		2				
	Oral Fluency IV		2				
	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues A		2				
	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues B		2				
	English for Advanced Studies C	2					
	English for Advanced Studies D	2					
	English for Specific Purposes C		2				
	English for Specific Purposes D		2				
	ドイツ語Ⅲ	2					
	ドイツ語Ⅳ	2					
	ドイツの言語・文化・社会 A		2				
	ドイツの言語・文化・社会 B		2				
	フランス語Ⅲ	2					
	フランス語Ⅳ	2					
	フランスの言語・文化・社会 A		2				
	フランスの言語・文化・社会 B		2				
	スペイン語Ⅲ	2					
スペイン語Ⅳ	2						
スペインの言語・文化・社会 A		2					
スペインの言語・文化・社会 B		2					
中国語Ⅲ	2						
中国語Ⅳ	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	中国の言語・文化・社会 A		2				
	中国の言語・文化・社会 B		2				
	韓国語Ⅲ	2					
	韓国語Ⅳ	2					
	韓国の言語・文化・社会 A		2				
	韓国の言語・文化・社会 B		2				
	ハンガリー語Ⅲ	2					
	ハンガリー語Ⅳ	2					
	ハンガリーの言語・文化・社会 A		2				
	ハンガリーの言語・文化・社会 B		2				
	ポーランド語Ⅲ	2					
	ポーランド語Ⅳ	2					
	ポーランドの言語・文化・社会 A		2				
	ポーランドの言語・文化・社会 B		2				
	チェコ語Ⅲ	2					
	チェコ語Ⅳ	2					
	チェコの言語・文化・社会 A		2				
	チェコの言語・文化・社会 B		2				
	日本語Ⅲ			2			<p>■留学生・指定された帰国生徒は、日本語科目8単位に代えることができる。</p> <p>※「日本語Ⅲ」から「キャリア形成日本語(進学)」までは、留学生・指定された帰国生徒のみが履修できる科目である。</p>
	統合日本語Ⅲ			2			
	専門日本語(福祉・介護)			2			
	専門日本語(ホテル・観光)			2			
	専門日本語(文学・評論)			2			
	専門日本語(異文化コミュニケーション)			2			
	日本語プロジェクト教育A			2			
	日本語プロジェクト教育B			2			
ビジネス日本語Ⅰ				2			
ビジネス日本語Ⅱ				2			
キャリア日本語(就職)				2			
キャリア日本語(進学)				2			
Fundamentals of Japanese A			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Fundamentals of Japanese B		2				※ 「Fundamentals of Japanese A」から「Japanese Project Education B」までの科目は、指定された交換留学生・短期留学生のみが履修できる科目である。
	Fundamentals of Japanese C		2				
	Fundamentals of Japanese D		2				
	Intermediate Japanese Skills A		2				
	Intermediate Japanese Skills B		2				
	Intermediate Japanese Skills C		2				
	Intermediate Japanese Skills D		2				
	JLPT Preparation A		2				
	Advanced Japanese Skills A		2				
	Advanced Japanese Skills B		2				
	Advanced Japanese Skills C		2				
	Advanced Japanese Skills D		2				
	JLPT Preparation B		2				
	Japanese Project Education A		2				
Japanese Project Education B		2					

〔備考〕

- (1) 「English for Advanced Studies C,D」 と 「English for Specific Purposes C,D」 は、優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
- (2) IIIを履修するためには、IIの単位を修得していなければならない。同様に、IVを履修するにはIIIの単位を修得していなければならない。
- (3) 日本語科目は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2, N1）を選択すること。
- (4) 日本語能力がN2相当の水準に達していない場合は、語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

## 5. 専門基礎科目群

言語，文学，美術，歴史，社会，比較文化など，専門分野について学ぶ上での基礎を身につけるための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	比較文化概論		2			10 単位	国際文化コースは 5 科目 10 単位以上修得すること。  韓国語コースは，コース必修科目「韓国現代文化」を含み，5 科目 10 単位以上修得すること。
	文化人類学		2				
	言語学概論		2				
	日本文学概論		2				
	視覚文化論		2				
	政治学入門		2				
	社会学入門		2				
	法律学概論		2				
	日本の歴史 A		2				
	日本の歴史 B		2				
	外国史概説		2				
	アメリカ文化概論		2				
	中国概論		2				
	韓国現代文化		2				

## 6. 専門科目群

専門科目群は、専門科目群Ⅰ（国際文化）、専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）、専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）、専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）の4系列に分かれている。ⅠとⅡの科目群は、「国際文化コース」「韓国語コース」の2つのコースによって修得する単位数や必修科目が異なるので注意が必要である。どちらかのコースを各自の専門として選択し、4年次には各自の研究内容を文章や作品の形で集大成する。したがって、コースを念頭において、1年次から計画的に履修し、系統立てて学習する必要がある。

### (1) 専門科目群Ⅰ（国際文化）

「世界から見た日本、日本から見た世界」を基本理念に、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、世界の文化にかかわる専門知識を獲得し、同時に、文化比較により日本文化を世界的視野で見直し、世界に発信できる能力、世界で活用できる能力を身に付ける。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際文化)	国際文化入門	2				国際文化コースは24単位以上 韓国語コースは最低修得単位数を設定しない。	◆国際文化コース コース必修「国際文化入門」を含み12科目24単位以上修得すること。  ◆韓国語コース 特に条件はない。
	日本民俗学		2				
	日本文化論			2			
	日本語表現		2				
	日本文学史			2			
	日本の文学（古典）			2			
	日本の文学（近・現代）			2			
	アメリカ文学概論		2				
	アメリカの歴史		2				
	ラテンアメリカの歴史			2			
	ドイツの社会と文化		2				
	中国の歴史		2				
	日本美術		2				
西洋美術		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際文化)	文化交流史(日本:アジア)		2				
	文化交流史(日本:欧米)		2				
	日本とアジア		2				
	日本と北米		2				
	日本と中南米		2				
	日本とヨーロッパ		2				
	日中比較文化			2			
	多文化社会論			2			
	International Communication		2				
	Language Acquisition		2				
	Multimedia Production		2				
	Images of Japan : Literature and Film			2			
	Variable Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation			2			
	日本語学概論 A	2					
	日本語学概論 B	2					
	日本語の文法 A	2					
	日本語の文法 B	2					
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の音声		2				
	英語学概論 A	2					
	英語学概論 B	2					
	英語演習 I A	2					
	英語演習 I B	2					
	英語演習 II		2				
	中国語コミュニケーション I	2					
	中国語コミュニケーション II	2					
	クリティカル・リーディング A		1				
	クリティカル・リーディング B		1				
	国際文化プロジェクト		2				

(2) 専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）

日本が過去および現在、密接な関係をもち、未来においても相互の関係の発展が求められる韓国および韓国語が使用される地域の言語・文化・社会について総合的に学び、より深く探究することを目的とする科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (韓国にかかわる言語・文化・社会)	韓国語コミュニケーション (話す・聞く)Ⅰ	2				韓国語コースは24単元以上  国際文化コースは最低修得単位数を設定しない。	<b>■韓国語コース</b> コース必修「韓国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の4科目8単位を含み12科目24単位以上修得すること。  <b>■国際文化コース</b> 特に条件はない。
	韓国語コミュニケーション (書く・読む)Ⅰ	2					
	韓国語コミュニケーション (話す・聞く)Ⅱ	2					
	韓国語コミュニケーション (書く・読む)Ⅱ	2					
	韓国語コミュニケーション (話す・聞く)Ⅲ		2				
	韓国語コミュニケーション (書く・読む)Ⅲ		2				
	韓国の歴史	2					
	韓国の社会	2					
	韓国の文学		2				
	日韓通訳技法Ⅰ		2				
	日韓通訳技法Ⅱ			2			
	日韓翻訳技法Ⅰ		2				
	日韓翻訳技法Ⅱ			2			
	日韓比較文化			2			
	韓国語プロジェクトA	2					
	韓国語プロジェクトB			2			
	韓国語検定演習A	2					
韓国語検定演習B	2						
韓国語検定演習C		2					

〔備考〕

韓国語コースを選択する者は、1年次から計画的にコース必修科目を履修すること。

(3) 専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）

この科目群は、演習と研修から構成される。

「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次、「国際文化演習Ⅲ・Ⅳ」は4年次の必修である。「Ⅰ・Ⅱ」では研究法や論文作成法、口頭発表法を実践的に学び、「Ⅲ・Ⅳ」ではさらにそれを発展させ、みずからの見解を形成し、課題の発見と解決に努める。また、4年間の学びや活動の集大成として卒業論文や報告書をまとめたり、作品を制作したりする。

研修の内容は、「コミュニケーション・インターンシップ」「国際文化研修A・B」であり、いずれも選択科目である。「コミュニケーション・インターンシップ」は、海外において日本語教授の実習を行うもので、日本語教員養成課程（副専攻）の一環でもある。「国際文化研修A」は海外で、「国際文化研修B」は国内で研修を行う。当該地域の文化を現地において体験し、新たな知識と視野を獲得することを目的とする実践科目である。

1～3年次において、いずれかの研修に参加することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (ゼミ研修・実践)	国際文化演習Ⅰ			②		12単位	両コースとも、必修「国際文化演習」8単位、「卒業論文」「卒業制作」のどちらか4単位を含み、12単位以上修得すること。
	国際文化演習Ⅱ			②			
	国際文化演習Ⅲ				②		
	国際文化演習Ⅳ				②		
	卒業論文				4		
	卒業制作				4		
	コミュニケーション・インターンシップ	3					
	国際文化研修A	2					
	国際文化研修B	2					

〔備考〕

- (1) 「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修するためには、原則として、キャリア形成科目群における「基礎演習A・B・C」を修得していなければならない。

(4) 専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）

専門の学びをより広め、大学における学びを卒業後の活動や仕事に結びつける科目を配置している。国際的な場で仕事をするための知識や視点を習得する科目、専門職に必要な知識や技能を習得する科目、日本語教員や学芸員の資格取得を目指す科目が配置されているので、個々の目標を立てて履修していくことが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ (言語・文化・社会関連)	国際法			2		10 単位	両コースとも、10 単位以上修得すること。
	国際経済学			2			
	国際関係論			2			
	翻訳の基礎（英日）			2			
	日中翻訳技法Ⅰ		2				
	日中翻訳技法Ⅱ			2			
	日中通訳技法Ⅰ		2				
	日中通訳技法Ⅱ			2			
	日本語教授法（教授法）		2				
	日本語教授法（コースデザイン・評価）		2				
	日本語教授法（教材・教具）		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習Ⅰ			2			
	日本語教育実習Ⅱ			2			
	異文化間コミュニケーション論		2				
	異文化適応論		2				
	第二言語習得論		2				
	社会言語学		2				
	言語学			2			
	家族論	2					
アジアの女性論	2						
アジア国際関係論		2					
中欧の社会と文化	2						
中欧地域文化研究			2				
近代イギリス文学		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門 科目 群 IV (言語・文化・社会関連)	漢文講読		2				
	書道 (書写中心)		2				
	経済原論 A		2				
	経済原論 B		2				
	地理学 A		2				
	地理学 B		2				
	地誌		2				
	文化遺産		2				
	生涯学習論		2				
	ミューゼオロジー入門	2					
	ミュージアムと展示		2				
	ミュージアムと情報・メディア		2				
	ミュージアムと教育		2				
	ミュージアム・マネジメント			2			
	ミュージアムの資料			2			
ミュージアムと資料保存			2				

## 7. 教職・学芸員関連科目群

専門の内容以外に、教育職員免許状や学芸員資格などの取得に必要な科目を配置する。本科目群の履修単位は、卒業単位に含まれないが、各教科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。

※ 教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
教職・ 学芸員 関連 科目 群	博物館実習Ⅰ			2		各教科教育法は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ、卒業単位に含むことができる。	
	博物館実習Ⅱ				1		
	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
	国語科教育法Ⅰ			2			
	国語科教育法Ⅱ			2			
	国語科教育法Ⅲ			2			
	国語科教育法Ⅳ				2		
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	地理歴史科教育法Ⅰ			2			
	地理歴史科教育法Ⅱ			2			
	道德教育の理論と方法	2					
総合的な学習の時間の指導法		2					
特別活動論		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
教職・学芸員関連科目群	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		

### 8. 特設科目群

この科目群は、留学生のための日本語科目である。原則として指定された留学生のみが履修でき、卒業単位には含まれない。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
特設科目群	日本語（言語知識）	2					
	日本語（読解・聴解）	2					
	日本語 A	2					
	日本語 B	2					
	日本語 C	2					
	日本語 D	2					
	日本語 E	2					